

第22号

1 直近の活動

3月30日(木)四部会連絡会 (繊維・化学・資源・金属)

4月02日(日)幹事会

4月08日(土)一次試験合格者交流会

4月22日(土)金属部会 & **YES-Metals!** 合同新合格者歓迎会

4月23日(日)金属部会新合格者歓迎見学会

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

5月07日(日)幹事会

5月14日(日)金属部会CPD技術セミナー7「歴史金属学」

5月17日(土)部会長会議

5月20日(土)二次試験合格者歓迎会

5月25日(木)四部会連絡会2回目 (繊維・化学・資源・金属)

5月27日(日)金属部会定例部会(5月分)

3 部会四方山

▶皆さんの選挙へのご協力感謝します。部会長選挙はどの部会も無投票であったが、理事選挙にはしっかり対応していただきました。渡邊次期新理事が誕生しました。今後のご活躍を祈念します。我々、金属部会も渡邊さんを全力でバックアップしていきたいと考えています。▶笹口現理事は、理事会、委員会活動に大活躍で、本当に頭が下がる思いでした。金属部会は、このような先輩たちが築いてこられた頑張り精神がリアルに感じられる素晴らしい部会だと感じています。▶私も、部会長1期目が終わろうとしております。2期目も、皆様にお助けいただき、叱咤激励頂きながら、努めたいと思っています。▶幹事の皆さんには、本当に助けられています。地方活性化幹事や部会活性化幹事も、各々のできることを全力で協力いただいています。今回の新合格者歓迎会では、**YES-Metals!**のメンバが全面的に協力いただき、見学会も藤間幹事の頑張りでも滞りなく行えました。今回の歓迎会は、昨年、新たに部会活性化幹事になってくれたお二人の頑張りで行えました。▶地方活性化幹事には新たに、中部本部より2名、中国本部より2名が加わっていただきます。手続き上の関係で、5月末での幹事登録になります。▶金属部会から提出する「デジタル技術」に関する論文も、芝崎さんの頑張り、勉強会のメンバの全面協力で広報委員会との校正のやりとりが進んでいます。関係者の皆さんの協力がなければ、今回の論文作成はありませんでした。▶金属部会の会合も、オンライン一辺倒から次第にリアルとオンラインのハイブリッドに移りつつあります。コロナ体制から、ウイズコロナ体制への以降が進んでいます。そうした中、今回の歓迎会の中で、リアル会合におけるコロナ発生時の対応が、きちんと想定されていなかったことに気付かされました。幸い、我々の会合での感染者拡大はなかったのですが、判明後の連絡体制などが不明確で、皆さんにご迷惑や心配をおかけしました。建前ではない、実効性のある対策の必要性を

認識した次第です。病気の扱いが変わっても、我々のような年齢層の高い集団では、常にリスクヘッジをし続けなければなりません。そう、気付かされた月末でした。▶部会員の皆さんの今後のご協力、本当によろしく申し上げます。

4 和鐵管見 20

最近の楽しみ。最近ハマっているのは、昔の英語やドイツ語の書籍を読むこと。この場合、翻訳ソフトを使うと、何だかズルをしているようだが、全然そんなことはない。翻訳ソフトで、まともな文章が出てくると考えるのは大間違い。ましてやOCRなども、そのまま信じると危ないこと極まりない。語順が入れ替わったり、読み間違っただけで意味が正反対になるのなどザラにある。▶でも、色々発見がある。英語も、小説と異なり、科学技術書になると、本当に5行くらい繋がる文が目白押しだ。これはすごい。翻訳ソフトの助けを借りてもその入り組んだ構文を読み解いて、意味が通るようにするには、ものすごい時間がかかる。▶一方、小説は短い文章が多い。会話文になっている部分は文が畳み掛けるようになっている。ただ、ここで注意点は、ドイツ語の小説は、昔の本は飾り文字になっていることだ。ドイツのアマゾンで1920年代に出版された初版本を買ったのだが、本を開いて驚いた。とてもアルファベットとは思えないような飾り文字がどばーと出てくる。▶でも面白いもので、そんな飾り文字でも見慣れてくると読めるようになってくる。それに、古書の中に入っていた謎の絵葉書が役立つ。それは *BücherWissen* (書籍知識) と書いてあり、その本の字体の簡易文字との対応表が印刷してある。そうか、古書店の店主は日本から物好きが買った本の文字が全然読めずに返品されることを恐れたのか、それともサービスか。▶実はドイツ語を訳した本は、昭和19年に日本でも有名なドイツ文学者の藤田五郎さんの翻訳本が出ている。それを、今回、完全に新訳した。題名は「ROMAN Metall (小説金属)」有名なシェンチェンガアの本である。とりあえず読めるレベルまで訳せたので、次は、その内容の解説である。なんせ、1700年代から1920年代までの欧州の金属系の有名人が目白押しに登場する小説である。面白いこと極まりない。ただ、あまり冗長である。章立てが奔放であり、しかも、会話劇風である。会話が弾むどころの騒ぎでなく、会話が飛び回る。▶ドイツ語を真面目に読んだのは、大学の第二外国語以来だが、ドイツ語の面白さが目につく。単語をくっつけて、新しい意味を持たせるのも面白い言語である。▶金属を知る方法には、真面目に金属の教科書を読む方法が正攻法であろう。しかし、楽しみながら知識を身につけるのもなかなか、味なものである。